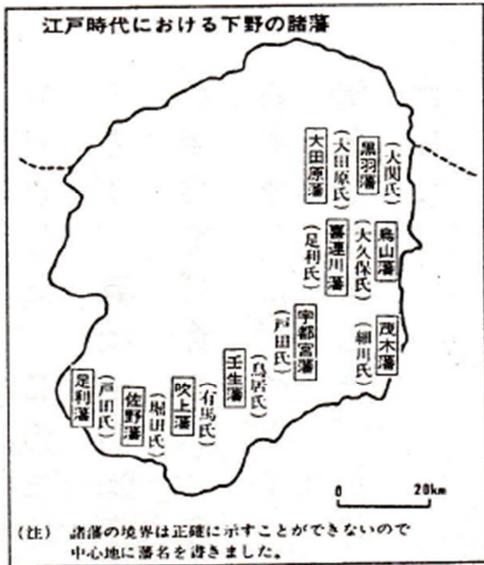
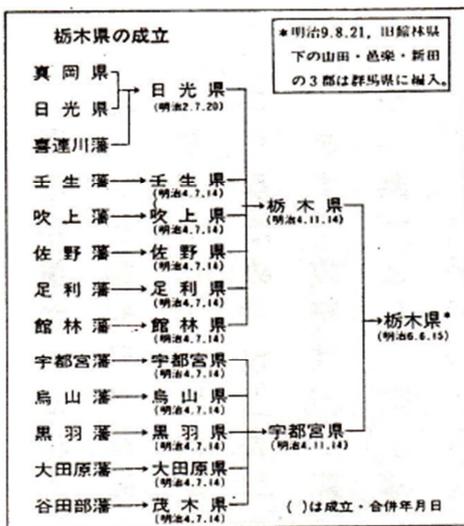


はいはんちけん  
 廃藩置県



1871 (明治4) 年7月に廃藩置県が行われ、藩を<sup>はいし</sup>廃止してすべて県に改められました。これにより、<sup>てんのう</sup>天皇を中心とした<sup>ちゅうおうしゅうけんこっか</sup>中央集権国家の基礎が<sup>しもつけのくに</sup>つくられました。下野国では、明治2年に成立していた日光



県に加え、<sup>ふきあげけん</sup>吹上県など10の新たな県が誕生しました。その後、いくつかの県が合わさって、同じ年の11月に下野国の南部を中心とした栃木県と、北部を中心とした宇都宮県の2つの県になりました。このとき、

栃木県の県庁は栃木町に、宇都宮県の県庁は宇都宮町に置かれました。「栃木県」の県名が使われたのはこれが最初でした。

そして、1873 (明治6年) 年6月15日に、この2つの県が合併して、栃木県に統合されたのです。(現在6月15日は県民の日となっています) 栃木県の県庁は、栃木町に置かれることになりま

した。当時、県庁の周囲に堀<sup>ほり</sup>をはりめぐさせた堀は、現在でも「県庁<sup>けんちょう</sup>堀<sup>ほり</sup>」として、栃木市役所、栃木中央小学校、県立栃木高校を囲むようにして残っています。